

令和4年度学生・教職員による教育懇談会  
実施報告【大学院生（理系）】

1. 開催日時 12月13日（火）17：00～18：30
2. 開催形態 Zoomによる開催
3. 主催 大学教育推進機構及び大学教育推進機構全学評価・FD委員会
4. 出席者

大学院生：前期課程8名、後期課程8名

教職員：教員11名

（大村大学教育推進機構長、寺内大学教育推進機構副機構長、菊池教養教育院長、横小路大学教育研究センター長、北村キャリアセンター長、GREER 国際コミュニケーションセンター副センター長、朴グローバル教育センター長代理、万年委員、河野委員、貝原委員、鈴木委員、近田委員、葛城委員、大山委員、石井委員代理）

職員：4名（学務部事務職員）

5. 懇談内容

大村機構長から開催にあたっての挨拶、横小路センター長から懇談会の流れについての説明後、4グループに分かれて懇談を行った。

パート1：入学・進学時のサポートについて

質問1：大学院に入学・進学する際に戸惑ったことや困ったことはありませんでしたか。

（関連ワード：履修ガイダンス、研究室・指導教員の決定など）

- ・内部進学のため、大きく困ったことはない。【同様の意見複数有】
- ・外部からの入学であるが、大きく困ったことはない。
- ・内部進学のため、指導教員及び研究室の先輩からの助言等があり特段困ることはなかった。
- ・学部在学時の研究を継続したいため、内部進学をしたが、特段大きく困ったことはない。
- ・学部在学時の研究を継続したいため、内部進学をしたが、入試等に関しては大きく困ったことはない。学部在学時の研究室配属時に、各研究室の情報をもう少しオープンにして欲しい意見が周囲の学生からあった。
- ・学部在学時の研究を継続したいため、内部進学をしたが、特段大きく困ったことはない。
- ・研究室の決定のプロセスに関して問題があると感じている。希望研究室の申請は、会場に集合し、その場で行うのだが、他の学生との駆け引き等を行うことにストレスを感じる。  
→現在は、申請方法が変更（書類による申請）されている旨の補足があった。
- ・外部からの入学であるが、履修授業の選択に戸惑った。同じ研究室の学生の助言が有用だ

った。

- 内部進学のため、入学手続きに関しては、大きく困らなかった。履修授業の選択に関しては、周囲に相談できる同級生がいなかったため、直接教務係に確認した。
- 留学生だが、研究室の情報を収集するのに、HPの情報だけでは不十分であり、苦労した。直接、教員へメール等でコンタクトを取ることに抵抗を感じた。
- 学部在学時に進路に関して相談できる人が、指導教員以外にいれば良かった。
- 外部からの入学であるが、入試の出願等の手続きが、紙ベースでのやりとりだったので煩雑に感じた。
- 内部進学のため、大きく困ったことはなかった。手続きが全て紙ベースでのやりとりだったので、デジタル化できるものは対応してほしい。
- 内部進学であり、進学前に研究室見学等丁寧な説明があったので、特段困ることはなかった。

## パート2：大学院での履修や学修環境について

質問2：これまで計画的、体系的な履修ができていますか。

(関連ワード：カリキュラム、ナンバリング、クォーター制、GPA など)

- 遠隔地でのフィールドワークの機会が多いので、オンライン授業の方がありがたい。
- オンライン授業であれば、勤務先からでも受講できるのでありがたい。
- 所属している専攻のみキャップ制があることに関して不満を感じている。必修科目の授業とインターンシップの時間帯が重複したため、インターンシップへの参加を見送ったことがある。
- 授業によって、単位取得のための労力が異なる授業が様々あり、個人的には、バランスよく組み合わせて履修ができたと感じている。
- 学部のカリキュラム内容が、研究者養成を目的している印象がある。社会人になった際に役立つ人材を養成する目的の授業も開講してほしい。
- オンライン授業であれば、勤務先からでも受講できるのでありがたい。
- 前期の履修登録時に、後期開講の一部の科目（集中講義）の開講状況についての情報がなく、履修計画を検討するのに苦労した。修了単位数を満たしているかのチェックを自身で行わないといけないのが不安である。
- 指導教員担当の授業科目は、自身の研究とリンクしていたが、それ以外の科目に関しては、あまりリンクしている印象はなかった。
- オムニバス科目が多く、各担当教員の研究の表面的な内容を学習する印象だった。
- 自身の研究と直接リンクしない授業もあったが、研究を進めるにあたり、その周辺の内容を学習することは、決して無駄ではなかったと感じている。
- 授業履修にかかる時間が、他の研究科に比べて多い印象があり、研究活動との両立が難しい旨の意見が周囲の学生からあった。

質問3：これまでの研究（学修）活動は順調に進んでいますか。

（関連ワード：研究室、ゼミ、研究指導、学会発表、論文執筆など）

- 指導教員等と共同研究を進めており、論文執筆の進捗についても概ね順調であり、5月に学会発表を行った。
- 指導教員、他大学の研究室と共同研究を進めている。留学生だが、論文執筆に係る日本語のチェックは指導教員に協力していただいている。
- 研究員の指導の元、学部在学時より継続して研究を進めており、進捗も概ね順調である。
- 研究員の指導の元、学部在学時より継続して研究を進めてきた。学会発表も数回行い、論文執筆の進捗についても概ね順調である。
- 学会での発表が、オンラインでの発表だったのが、残念だった。
- 他研究室の実験機器等を共有できれば、実験の進捗がより進んだ可能性がある。
- 入学時の研究計画からは、若干進捗は遅れているが、複数の研究を同時に進行している。論文投稿に係る費用に関して、大学のサポートがあれば助かる。指導教員とは、Zoomにより指導を受けることが多い。研究室の学生とは、ゼミ外でのコミュニケーションはほとんどない状況である。
- 指導教員の指導の元、研究・論文執筆の進捗についても概ね順調である。大学の後期課程学生への奨学支援制度は大変助かっている。今後、学会が対面での開催が増えてきた場合、交通費等の負担に関して不安を感じる。留学生だが、指導教員及び研究室の学生とのコミュニケーションは十分に図ることが出来ている。
- 指導教員及び研究室の学生と、比較的容易にコミュニケーションを図ることができる状況である。研究助成に関する情報は、HPより収集している。
- 指導教員のサポートは充実しているが、仕事との両立に少し苦労している。研究室で、週に一度報告会が行われており、指導教員及び研究室の学生とのコミュニケーションには困っていない。
- 概ね計画通りに進んでいる。留学生の先輩は、和文・英文での論文執筆に苦労しているようである。
- 研究室の環境もよく、概ね順調に進んでいる。
- 概ね計画通りに進んでいる。研究室内は社会人ドクターが多いが、3年での学位（博士）取得は難しいようである。
- 研究に関しては、概ね順調に進んでいる。学会発表がオンラインによるものばかりのため、他の研究者と深いコミュニケーションを図ることが難しく、少しモチベーションが下がっている。研究室内でのコミュニケーションを図ることが苦手で、研究活動に躓いている学生がいるようである。

質問4：神戸大学の学修・研究環境を十分に活用していますか。

(関連ワード：教室環境、図書館、電子ジャーナル、TA・SA、無線 LAN など)

- 遠隔授業を学内で受講する際、発言しても差し支えない受講場所の確保が難しかった。
- TA 業務は、経済的な面で助かっている。
- TA 業務に従事したが、自身の学びの振り返り等得るものが多かった。一方、業務の負担が大きく苦労した印象がある。
- 学年によっては、学生数が少なく、修士論文執筆の忙しい時期に TA 業務に従事しなければならない場合がある。
- 自然科学系図書館が改修工事のため閉館していて、利用できない時期があった。【同様の意見複数有】
- 電子ジャーナルは充実している印象がある。専門外の書籍を閲覧する際、図書館を活用できた。
- 電子ジャーナルは、学外からでも利用できるもので、活用している。
- 前期課程在学時に図書館をよく利用した。Web サイトで、図書の貸し出し情報が確認できるのが便利だった。施設内の Wifi 設備については満足している。
- 一部の電子ジャーナルが、大学で未契約のため、指導教員に依頼して閲覧させてもらっている。
- 電子ジャーナルは、他大学に比べて充実している印象である。
- 学内のネットワークが、少し使いにくい印象がある。
- 一部の電子ジャーナルが未契約のため閲覧できないことがあった。

### パート3：進路について

#### 質問5：留学経験や今後の留学予定はありますか。

(関連ワード：交換留学、ダブルディグリープログラム、海外学術調査など)

- 後期課程進学後、大学の支援制度を活用の上、留学したい希望がある。
- 後期課程進学後、アメリカへの留学を希望している。
- 留学の経験・予定は現時点ではない。自身の研究分野と関連のある研究施設があるオーストラリア、イギリス等の情報を収集している。
- シンガポールのサマースクールに参加した。来年、カナダのワークショップに参加予定である。留学に関する奨学金等のサポートを充実してほしい。
- 機会があれば、海外での学会発表に出席したい。その際は研究科の支援を利用できればと考えている。
- 今後、日本に留学する学生と共同研究をする等の国際交流ができればと考えている。

#### 質問6：希望進路に進むため、どのような学修又は準備を行っていますか。

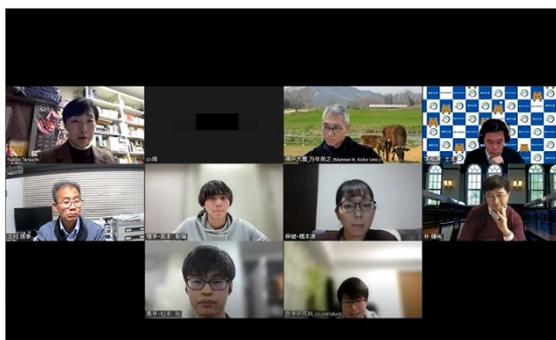
(関連ワード：キャリアセンター、就職活動、進学準備など)

- 公務員への就職が内定している。

- 企業への就職を考えている。
  - 後期課程への進学を希望している。
  - 後期課程への進学を希望している。また、日本学術振興会特別研究員の採用を目指している。
  - 研究指導の厳しさや時間が、研究室によって濃淡が激しく、就職活動に専念できる時間に差がでている印象がある。
  - 研究指導の厳しさや時間が、研究室によって濃淡が激しく、就職活動に専念できる時間に差がでている印象がある。
  - 海外で就職する予定である。
  - 大学教員等の研究職への就職を希望している。留学生だが、本国の大学の教員ポストの状況等の情報を得ることが困難である。
  - 社会人（理学療法士）であるが、機会があれば臨床医と大学等での研究との両立を希望している。
  - 民間での就職を希望しており、就職活動中である。研究と就職活動との両立に苦労している。
  - 大学教員等の研究職への就職を希望している。【同様の意見複数有】
  - ポスドクや民間企業の研究員の経験を経た上で、最終的には大学教員等の研究職への就職を希望している。
  - 社会人であり、大学との共同研究を進めている現状であるが、博士課程修了後も、同様に企業に所属しつつ、大学等との共同研究を進めていきたい。
  - 大学教員への就職、民間企業への就職のいずれかで迷っている。キャリアセンターを利用し、情報収集に努めている。
- その他  
特になし

## 6. 今後の対応

本懇談会にて学生から得た意見のうち、対応可能なものについては適宜対応する。



5

